

〔実践例 5〕

「手づくりの本 ― 私の生活」（高等学校第 2 学年）

県立柿崎高等学校教諭 児玉 瑞子

(1) 授業仮説

「手づくりの本の制作」において、生徒が自分自身の生活の中から感じたこと、体験したこと、身の回りのものなどをもとにして、表現の内容を練り、本の内容や、好みに応じた本の形式を取り入れて制作することによって、生徒一人一人の考え方や持ち味などの自分らしさを生かして表現することができるであろう。

(2) 題材設定の理由

① 生徒の実態

本校は、各学年 4 学級、計 12 学級の全日制普通科の高校である。芸術は、音楽、美術、書道の 3 科目からの必修選択で、卒業までに 1, 2, 3 学年でそれぞれ 2 単位、計 6 単位を履修する。授業は、2 クラスで芸術 3 科目の同時展開で行われている。

2 学年の生徒は、他学年と同様に、人なつっこく素直であるが、集中力と根気に欠ける面がみられる。美術の授業においては、自分の興味の持てない題材には、はっきりと意思表示をする反面、新しい題材や経験のないことに強い関心を示すという特徴が見られ、熱心に取り組むもの、しかたなく課題をこなすものと様々である。これまでに、アクリル画、お面づくり、立体カード、平面構成などを題材として取り上げてきたが、題材によっては、生徒に好き嫌いが生じ、表現意欲に欠けるものや、作品が未完成に終わるものもいた。また、2 学年は、本校では「真面目な学年」と言われているが、授業中の私語、落書き、いたずらなどが多く、他の学年とさほど変わらないと感じている。

このような生徒の実態から、すべての生徒が、興味関心を持つことができ、熱中して取り組める題材の検討及び指導内容の工夫の必要性を感じているところである。

② 題材の特質及び研究主題との関連

生徒が、意欲的、自主的に制作に取り組み、つくる喜びを味わうことができるように、共通テーマを設定し、いくつかの課題の中から選択する自由制作を試みることにした。共通テーマは、「生活」とすることにした。このテーマは、生徒の自分らしさがより発揮できる幅のあるものであり、生活の中で感じたことや体験したこと、身の回りのものなどから思い通りの主題を練り上げることができると考えた。課題は、手づくりの本、アクリル画、立体カード、木版画、紙粘土による立体、ペンによる細密画、木彫レリーフ、ポスターを用意し、これらの中から希望選択するものとし、「手づくりの本 ― 私の生活」は、これらの課題のうちの一つである。それぞれの選択者数は、手づくりの本 20、アクリル画 3、立体カード 6、木版画 3、紙粘土による立体 3、ペンによる細密画 24、木彫レリーフ 13、ポスター 9 であった。

手づくりの本の制作では、生活の中から、思い通りのテーマを考え、絵本、詩集、写真集、自伝など

自分の好みにあった本の形式を選んで表現することにより、よりいっそう興味関心を持って意欲的に取り組めるものと考えた。また、本の大きさやページ数、とじ方を考えたり、表現の工夫などを行うことによって、よりいっそう自分らしさを生かすことができるであろう。また、準備した材料や、表現内容量が過大にならないように、大きさをB5以内、ページ数を30P以内という条件を設けることにするが、本の内容や表現方法については、限定せず、自由な発想でつくることを呼び掛けたい。

製本の方法では、本文のまとめ方として、のりづけと一折り中とじから、生徒の好みや本の厚さなどに応じて選べるようにした。また、生徒自身が本の内容にあわせて紙や布を選んで、これを本製本するものとした。この方法を選んだ理由は、本製本の作品例を見た生徒が強い興味を示したということと高校生の技能的な発達段階に適した方法であり、生徒の表現欲求を満足させることができるものと考えたからである。

(3) 指導目標

① 知識・理解目標

- ・学校生活、家庭生活、社会生活などから本のテーマを決め、内容の構想を練り上げることができる。
- ・本の構造、製本の方法について理解する。

② 技能目標

- ・張り合わせまたは一折り中とじで本文をまとめ、紙や布を表紙にした本製本ができる。
- ・本の内容を美的に構成するとともに表現方法を工夫し、自分らしさを生かして表現することができる。

③ 情意目標

- ・創造することの意欲や美術への関心が高まる。
- ・友人の作品の表現意図や表現の工夫、個性的表現に関心を持つことができる。

(4) 指導計画(計15時間)

第一次(導入)	・課題を知り、本の構造及び製本について理解する。……………	1時間
第二次(発想)	・「生活」というテーマで作文する。……………	1時間
第三次(構想)	・本の内容、大きさ、ページ数、表現方法などを決める。……………	2時間
第四次(制作)	・製本の方法について理解する。 } ……………	2時間
	・製本する。 } ……………	
	・本の中身を制作する。……………	8時間
第五次(まとめ)	・鑑賞……………	1時間

(5) 評価

- ・「生活」というテーマをもとにして、自分らしい発想で内容を練り上げたか。
- ・内容や表現方法を工夫し、自分らしさを生かして表現することができたか。
- ・製本の方法を理解し、本製本することができたか。
- ・意欲的に取り組み、美術への関心が高まったか。

(6) 準備


＜教師＞ 本(参考作品)、ケント紙、色画用紙、黄ボール紙、のり、ボンド、刷毛、麻糸、製本針、

寒冷紗テープ、しおりひも、花ぎれ、竹串、クリップ、めうち、ブロック、輪ゴム、カッターナイフ、はさみ、定規、新聞紙

＜生徒＞ 表紙用の紙または布、表現に必要な画材

(7) 指導の実際（学習活動と生徒の反応）

過程	学 習 活 動	教師の働きかけ、指導上の留意点	生 徒 の 反 応
第 一 次	<ul style="list-style-type: none"> ・手づくりの本の課題を提示する。 ・本の構造及について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自ら制作した本や、絵本、写真集などを紹介し、興味関心をいだかせる。 ・プリント資料をもとに本の構造等について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の本をつくる」ということで強い関心を示す。
第 二 次	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活」というテーマで自分なりに考えたことを作文にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活」というテーマを幅広く捉え、学校生活、家庭生活、社会生活などからの体験や想像をもとに発想させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の時間に作文を書くことに不満の声がでる。
第 三 次	<ul style="list-style-type: none"> ・制作する本の構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本の内容、大きさ、ページ数、表現方法などを構想する。 ・構想が練り上げを容易にするために、計画プリントを用意し、必要事項を記入させる。 ・短い制作期間の中で、計画的に制作するよう注意する。 	
第 四 次	<ul style="list-style-type: none"> ・本の内容等を決める。 ・製本の方法について理解する。 ・製本する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチをして内容を練る。 ・本の内容、大きさ、ページ数を決める。 ・参考作品（本文を貼り合わせ、一折り中とじでまとめ本製本したもの）を用意する。 ・ページ数が多い本は、一折り中とじ、少ない本は、貼り合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本の内容等が決まる生徒、決まらない生徒のばらつきがある。 ・小口をカッターナイフで切るところがうまくいかない生徒が多

第 四 次		<p>を選ぶように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本の内容に合わせた表紙の布、紙を準備させる。 • ボールの寸法を間違わないように割り出すように注意する。 • 表紙のつけ方は、実際にやって見せて、やり方を説明し、個別にも指導する。 	<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 女子生徒は、一折り中とじのめうちによる穴開けに手間どるものが多い。 • いろいろな柄の布や紙を用意した。
	 <p>制作風景 (表紙づくり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本の中身を制作する。 • 「本を開いたらがっかり、というようにならないようにしよう」と励ます。 • 本の内容にあった表現方法を工夫する。 • 机間巡視で個別に指導する。 • 完成後提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本の内容にあった、表現方法や技法についての相談がでる。 • 様々な本のアイデアが生まれ制作に熱中するようになる。 • 自主的に放課後も制作する生徒が出始める。
第 五 次	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の制作について反省する。 • 友人の作品を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の工夫した点、成功した点などを披露し合う。 • 友人のアイデアやその人らしさに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「こんなすごいやり方もあったのか」「これすごい」「この写真自分で撮ったの？」など様々な感想がでた。 • 完成した自分の作品を持つ生徒は、実に満足そうに見えた。

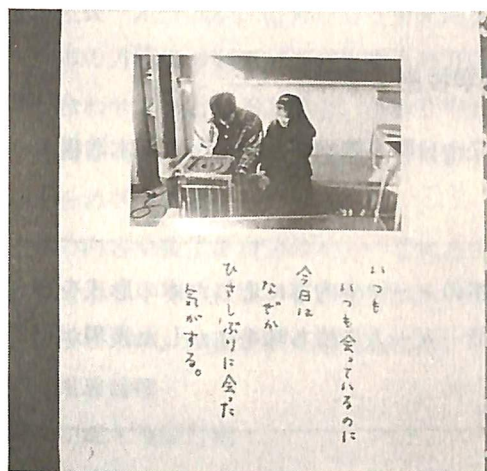
次に生徒の作文2例を紹介する。

楽しい時やつらい時、悲しい時に、いつでも近くにいるくれる友達がいるのは、幸せであると思う。私には、本当に、すぐそばにいつもいてくれる優秀な友達がいる。最近のことだが、私はとってもかっこいいCDを買った。部屋で一人で聴いているだけじゃあ物足りなくて、その友達を呼んだ。幸せいっぱい気分ですてきな私を少し白い目で見ていたけど、しばらく静かに目をとじて聴いていた。曲が終わって感想を聞くと、ちょっとすまして「まあまあね」と言った。私は大好きな友達と大好きな歌を聴けて、幸せだと思った。幸せと一緒に嬉しうと感じられることは、すごいことだと思った。友達は、私をいつも幸せにしてくれるので私もいつか恩返しができるといいなと思う。「また、一緒に夜の散歩をしようね」と言ったら友達は目であなづいた。(M・K)

私の未来を階段に分けて表現してみたい。簡単なイラストで描いて、所々にポエムをそえて、自分の生き方をアニメ化するのでもいいかも知れない。小説もいいけど、やっぱりイラストを中心に、頑張ってみようと思う。その物語の内容は、主に、自分の性格を表したい。ありのままを物語りにして自分でも楽しめて、他人が見たらもっと楽しめるものにしたい。未来といっても、私が将来何になりたいとかじゃなくて、例えばあり得ないこととか、できるわけもないのに挑戦するとか、その他いろいろ。自分のようで自分でない自分を描きたい。(J・W)

生徒が制作した本の形式や内容、表現の方法等は次のとおりである。

No	本の形式	主 な 内 容	本文のまとめ方 表 紙 の 素 材	表現方法及び工夫した点
1	絵 本	猫の一日を貼り絵で表現 「ねこのしっぽ」	一折り中とじ 紙表紙	ちぎり絵で素朴な感じを出している
2	〃	犬の目から見た世界を想像で表現 「無題」	〃	色鉛筆によるイラスト
3	詩(写真)集	詩に合わせた写真のコラージュ 「17才」	一折り中とじ 布表紙	写真, グラビアのコラージュ
4	詩 画 集	自作の詩にイラスト	一折り中とじ 紙表紙	イラスト
5	詩(写真)集	好きな詩に写真をそえて	〃	詩のイメージに合わせた写真を選んでいる
6	〃	自作の詩と写真で、学校の日常を表現	〃	タイトルを新聞のコラージュで工夫
7	絵 本	「ちかちゃんの家」家族の紹介	〃	表紙のタイトルをフェルトの切り抜きでつくって貼り付けた
8	画 集	自分の好きなものを絵にまとめた	のりによる貼り合わせ 紙表紙	日用品, 好きなもの, 自画像などをペン, 色鉛筆, 絵の具を使って表現
9	〃	季節や歌からのイメージを絵にまとめた	一折り中とじ 紙表紙	色鉛筆によるイラスト
10	〃	季節の花(1月～12月)を絵にまとめた	一折り中とじ 布表紙	表紙に花柄の布を使用
11	〃	自分の好きな花とその花言葉をまとめる	〃	花言葉を自分向けに書き換えている
12	総 合 本	ある一日の生活を綴ったイラスト, 写真, コメント集	一折り中とじ 紙表紙	ページごとに表現を変えている。



No13 「17才」



No14 「私のおたち」

(8) 結果の考察と今後の課題

完成した手づくりの本を提出する生徒の顔は、皆いい表情をしていた。「大変だった」と言いながらも、作品の出来は生徒それぞれに納得のいくものとなったようだ。私が予想していた以上、意欲的に取り組むことができ、また、美術に苦手意識を持つ生徒からも「初めて作品づくりが楽しいと感じた」「また本をつくってみたい」「美術って面白かったんだね」などの感想を得ることが出来た。また手づくりの本以外の課題を選択した生徒から「私も本をつくれればよかった」「この本欲しい」「春休みに作り方を教えてください」という声も聞かれた。

生徒がどんな作品にするか、具体的なイメージを広げ深める意味で、「生活」というテーマで作文を書かせたが、「何で美術の時間に作文を書かなきゃいけないのか」といった不満や自分が起きてから寝るまでの一日をそのままどった内容が多く、期待したほどの効果は、あまりなかったようだ。

製本の段階の、カッターやめうち等を使った作業は、ページ数が多いほど本が厚くなって難しく、時間がかかったが、仕上がりはきれいなものとなり、途中で失敗するものもいなかった。

出来上がった本は、絵本、詩集、詩画集、画集、イラスト集、などとその形式は、バラエティに富み内容も様々である。表現には、写真やイラスト、コラージュなどを活用し、生徒一人一人の持ち味を生かした工夫がされており、それぞれに自分らしさが生かされたものとなった。また、生徒がつくったこれらの本を通して、生徒一人一人の生活や興味、微妙な心の揺れ動きなどを感じ取ることが出来る。

今回初めて、いろいろな課題の中から自由選択して制作活動を行ったが、これまでよりはるかに、自主的、意欲的に取り組み、なかでも絵本づくりを課題として選んだ生徒は、意欲的であった。今回は、生徒の側に立ち、自主性を重視した課題ということで、課題の選択枝の幅を広げることにしたが、課題が多くなればなるほど、課題ごとの専門性が教師に要求されると同時に、生徒一人一人に個別指導する時間が制約されることになり、課題選択の幅の程度が重要な問題であるといえる。また、過去に経験した課題をより一層深めるために選択課題の中に取り上げたり、未経験な課題でも生徒一人一人が、制作手順をより理解出来るような工夫を考える必要があるように思う。